

# てらこや埋文

2011年

春夏秋冬  
特大号！

## 平成 22 年度の展示活動は多種多彩！

『季刊』と称しながらこの1年ご無沙汰してしまった『てらこや埋文』。楽しみにお待ちいただいていた皆さま、申し訳ありませんでした。そのお詫びに、今回は特大号、ページ倍増で当館の平成 22 年度の活動をご報告します。

### 学内連携企画展 学術資料写真展 MANABU's Eyes Vol.1 「Relics～光と影で蘇る古代のデザイン～」

今年度の学内連携展示として、平成 22 年 6 月 14 日から 8 月 27 日の間、メディア基盤センターの杉井准教授の写真展を開催しました。メディア基盤センターは当館とともに本学大学情報機構に所属しており、杉井先生には遺跡の発掘調査インターネットライブ中継、展示におけるタッチパネルビューアーソフトの構築など様々な面で当館の活動にご協力いただきました。

さてその杉井先生、趣味が写真撮影とのことで、今回の展示では当館が所蔵する埋蔵文化財を被写体として撮影いただき、撮影者の視点、そして考古学研究者の視点からそれぞれの作品にキャプションを付しました。約 3 ヶ月の開催期間中、549 名の方々にご来館いただくことができました。アンケート調査では、「今回の写真をポストカードにして大学の売店で販売して欲しい」「今回の展示も面白い試みだと思います。遺物だけではなく遺跡や遺構に着目した展示も見てみたいです」など、「vol. 2 も期待しています。杉井先生写真上手ですね！」などの声が届けられました。

また、会場で無料配布した作品カタログも大好評！展示終了後も、カタログをお求めになる声が多くなったことが印象的でした。まだ多少の残部がございます。ご所望の方は当館までご連絡を。

写真作品と被写体の考古学資料を同時に公開するという取り組みは、もしかすると全国初の試みだったのかも知れません。私たちにとっても楽しい企画展示となりました。vol. 2 もご期待下さい！



『Relics ~光と影で蘇る古代のデザイン～』展示風景

### 第 30 回企画展 「高坏～盛る器～」

高坏(たかつき)とは、長い脚部をもつ器で、供膳具(食物を盛る器)の1種です。器の中では形態が複雑で微妙な形態変化が観察されやすいことから、考古学研究においても重要視される遺物ですし、そのスタイリッシュな形状から考古資料の中でもファンが多い？器種とも言えます。

今回の展示では、本学吉田キャンパス(吉田遺跡)から出土した資料を中心に、防府市教育委員会、山口市教育委員会の協力を得て、「現代に見られる高坏の姿」「弥生時代から古代の高坏」「高坏の生産」「墓に供えられた高坏」「祭祀に用いられた高坏」という小テーマを設け、多角的に高坏に関して考察する内容としました。

平成 22 年 9 月 6 日から 10 月 8 日までという、わずか 1 ヶ月の短期開催となりましたが、本学夏期休業中にもかかわらず、約 100 名の方々にご来館いただきました。残暑の厳しい中、足をお運び下さった皆さまにお礼申し上げます。

「展示内容で1番印象に残ったものは？」というアンケートの問いかけには、「高坏の形状の現代性」「高坏のデザインが変遷すること」「高坏が現代の仏壇にもその姿を残していること」「ちょうど日本史で勉強したばかりの土師器を見ることができて感動した」などの回答が寄せられました。

今回は、考古学・埋蔵文化財に対し真正面から向き合った、ある意味で正統的な展示となりました。その分、多少難解な部分もあったかと思います。当館では昨今、埋蔵文化財だけではなく様々な学術分野との交流展示を行っていますが、今回のような「当館ならでは」の展示も継続して開催する所存です。今後ともご活用いただきますようお願いします。



『高坏～盛る器～』展示風景

## 大学博物館連携第一弾 交流展「EXCHANGE！山口大学埋蔵文化財資料館 × 梅光学院大学博物館」

当館は、今年度から新たな取り組みに着手しました。その名も『大学博物館連携企画』。山口県には、学内に博物館施設を有する大学として本学と梅光学院大学とが存在します。その2館が交流することにより、両校が所蔵する様々な貴重学術資料をより広く公開・活用し、さらには県外の大学博物館との連携、そして県内他大学との連携を模索することを目的とし、その第1歩として初年度は両館所蔵品の交流展示を開催することとなりました。

実はこの取り組みのきっかけとなったのが、『てらこや埋文』での取材でした。平成18年(2006)夏、本紙連載コーナー「山口県の博物館紹介」の取材にて梅光学院大学博物館にお伺いしたところ、佐藤睦子さんという素敵な学芸員に出会いました。通常、取材は小1時間ほどで終えるのですが、この取材に限っては実に3時間越え。佐藤さん、展示物と梅光学院大学史を語る語る…。薄れ行く意識の中で、「凄い人と出会ってしまった！この方といつか一緒に仕事がしてみたい！」と感じたのです。そしてその場で将来的な両館の「交流展」の開催を約し、そして温めること4年。ついに実現へ！

今回の企画は、梅光学院大学博物館の所蔵資料を当館で、当館の所蔵資料を梅光大学博物館で展示する、というもの。各会場の内容は以下の通りです。

### 梅光学院大学博物館会場

#### 『まるごと！山口大学埋蔵文化財資料館』

山口大学のキャンパスは県内5ヶ所(山口市：吉田地区・白石地区、宇部市：小串地区・常盤地区、光市：光地区)に散在していますが、その全てが「遺跡」の上に立地しています。今回の展示では、吉田地区が所在する「吉田遺跡」をご紹介します。吉田遺跡は、旧石器時代から江戸時代までの全時代の遺構・遺物が発見される、県内でも有数の複合遺跡です。山口大学の地下にひっそりと眠る悠久の歴史をご堪能下さい。

### 山口大学埋蔵文化財資料館会場

#### 『梅光学院大学博物館・コレクションをご紹介します！』

梅光学院大学博物館では、特に山口市域との縁が深く、梅光学院史と合わせて関心を持っていただける資料群をご紹介します。特別出品として、吉敷毛利氏の郷校「憲章館」の開学に尽力した漢学者・服部傳巖を曾祖父にもち、本学院の前身「光城女学院」の創設者で、キリスト者の服部章蔵先生の史資料を出品いたします。

開催は平成22年11月1日から12月11日までと短い期間

でしたが、山口大学会場では378名、梅光学院大学会場では500名を越える方々にご観覧いただきました。観覧者からは初の大学博物館交流に対し、「学問連携による有機的な展示をして欲しい」「市内の他の大学ともコラボレートして欲しい」「埋蔵文化財という枠組みを軸とした上で、他の分野へと繋がるような展示をして欲しい」など、多数のご要望が寄せられました。

兎にも角にも、歩き始めたばかりの大学博物館連携。大学が求められているものは何か、学生や地域に対し何を表現すべきなのか、じっくりと検討しながらよりよい方法で継続して行きたいと思います！

### 現在開催中の展示はこちら！ 大学情報機構連携企画展

#### 『資料に刻まれた記憶～文字・記号・印から読み解く～』

平成23年2月11日より、大学情報機構を構成する2施設、図書館と当館による連携企画展示を開催しています。

当展示において、図書館は所蔵している「山口明倫館」旧蔵の図書に押された蔵書印から、図書の歴史を紐解いています。埋蔵文化財資料館は、考古資料(土器や木製品)に刻まれた文字や記号、溝などから古代人の知恵を読み解きます。

どちらも、興味を持たずただ眺めるだけでは何も語ることのない「しるし」です。しかし少し興味をもって見つめると…貴重な「歴史情報」へと変化します！今回の展示で、学術研究の楽しさを感じていただけたと幸いです。(横山成己)



山口大学埋蔵文化財資料館会場の展示風景



梅光学院大学博物館会場入り口の模様



梅光学院大学博物館会場の展示観覧風景



大学情報機構連携企画展の展示風景



## 今年も吉田キャンパスで古代米づくりに挑戦！－第10回公開授業を開催しました－

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で10回目となります。

今年度の公開授業は平成18年度から取り組んでいたテーマ、日本のお米のルーツとされる赤米を実際につくり、土器などで調理して食べてみるという内容です。授業は山口大学農学部附属農場と共に延べ4回に渡って行い、小学生5人、教育学部学生6名、一般17名、合計28名の皆様に参加していただきました。

### 6月19日（土）-田植え-

今年度栽培した赤米の品種は昨年と同じ「紅吉兆」という品種（もち米）です。当日は農学部技術専門職員の長砂さんに代かきをしていただいた水田に19名で田植えをしました。田植えが初めての参加者も多く、泥で足元がぬかるんで大変でした。

### 8月7日（土）-稻の観察と土器づくり-

猛暑の中、長砂さんから水田に生える雑草についての説明を受け、稻のヒエの違いなどを学習しました。この後土器づくりに挑戦し、壺や皿など古代をイメージした個性的な土器ができました。

### 10月10日（日）-土器焼成と収穫-

本来は10月3日（日）に開催予定でしたが雨のため1週間延期しました。まずは前回つくった土器の焼成を「覆い焼き」で行うため、泥窯づくりに挑戦しました。次はいよいよ収穫です。最終的に稻は長さ約80～90cmにまで成長しました。今回は水田の約半分を模造した石庖丁などを使った穂摘みで収穫し、その後残った稻を鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。土器の焼成は翌日の午後までかかりましたが、ほとんど割れることなく焼き上げることができました。

### 10月30日（土）-脱穀・粉すり、赤米を食べる-

午前中は箸こぎ、臼と杵による粉すり、てみとザルによる選別とともに足踏み脱穀機による脱穀を体験しました。そして、いよいよ赤米の試食です。今回は土器による炊飯のほか、模造した古墳時代の甌（こしき）と甕（かめ）、竈（かまど）形土器によって赤米を蒸すことに挑戦しました。竈形土器の上に水をたっぷり入れた甕の置き、甕の上に赤米を入れた甌を据えて薪で強火で蒸します。約1時間後に見事に蒸し上がり、竈形土器も割れることなく無事でした。赤米は歯ごたえがあるものの美味しい甘みがありました。このほか、おかずにはアユの塩焼きや、豚汁、あさりのすまし汁をつくりましたが、これらも美味しい大好評でした。

### 公開授業を終えて

今回の公開授業は農学部附属農場で3回目の開催となりましたが、稻の生長や雑草の解説、土器づくりなど埋蔵文化財資料館と農学部附属農場の特色を生かした体験メニューを工夫することで、大学ならではの公開授業を実施することができました。参加者からは「体を動かしてみて昔の米作りの大変さが分かった（一般）」、「いろんな道具での稻刈りが楽しかった。来年も来たい（小学生）」などの声が寄せられ、好評でした。

今後も埋蔵文化財資料館ではこれらの声を生かした公開授業を実施する予定です。どうぞご期待ください！

（田畠直彦）



田植え



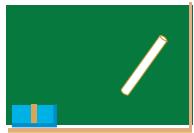
土器づくり



穂摘み



竈形土器による米蒸し



大学博物館連携 関連企画

## シンポジウム

# 『中国・四国地区の大学博物館～いま大学の博物館が求められているもの～』 を開催しました

## 大学の博物館を考えよう！

平成 22 年 11 月 1 日より開催の大学博物館連携交流展の関連企画として、大学に設置されている博物館施設の存在目的・意義を問い合わせるために、交流展開催期間中の 11 月 27 日（土）に山口大学吉田キャンパス共通教育合併講義棟 2 番教室にてシンポジウムを開催しました。

第 1 部『中国・四国の大学博物館から報告』では、交流展を開催した当館と梅光学院大学博物館とともに、愛媛大学ミュージアムの吉田広准教授、島根大学ミュージアムの会下和宏准教授にそれぞれの館の設立経緯、活動内容、現状の問題点、将来の展望等についてご報告いただきました。

第 2 部『いま大学の博物館が求められているもの』では、大学博物館と公立博物館の間にどのような違いが見られるのか、さらに大学内、大学間、そして大学と地域の間での MLA (博物館 [Museum]、図書館 [Library]、文書館 [Archives]) 連携の必要性等を検討するため、山口県立山口博物館の伊原慎太郎主任と山口県文書館の金谷匡人副館長、本学図書館の岡田隆副課長に講演いただき、その後討論会を行いました。

主催者の欲張り過ぎで、各報告・講演時間が短く、駆け足のシンポジウムとなってしまいましたが、他学の大学博物館の設立経緯や活動内容は本学にとって学ぶべき部分が多くありましたと感じます。最も印象に残ったのは『大学教員はその研究分野の専門家である。つまり、各研究室が大学博物館のバックヤードである』という発言でした。また、地域からの要求として『大学が行う最先端の研究や開発技術を表現できるような博物館を設立してもらいたい』という発言もありました。

当館は考古資料に特化した博物館施設であり、残念ながらいわゆる「大学博物館」ではありません。しかし、近年開催している他の学術分野との連携企画展の反響を見る限り、やはり博物館は図書館同様に教育研究の根幹を支えるべきもの、つまり本来的に大学になくてはならないものだと感じられます。

山口県には国内でも有数の歴史を誇る県立博物館、そして国内最古の歴史を有する文書館が存在します。そのような環境下で、山口大学の存在意義を見つめ直す。そのきっかけが得られたシンポジウムでした。

(横山成己)



## 地域連携事業

# 地域 NPO 法人の『野焼き体験ワークショップ』に協力参加！

## 地域に直結！

平成 20 年度に続き、今年度も地域の NPO 法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」の事業、『地域子育て文化づくり促進事業「野焼き体験ワークショップ～古代人に挑戦～』に共催館として参加しました。この事業は、①粘土制作セミナー（作陶）、②野焼き体験ワークショップ（焼成）、作品展示（展示）の 3 部構成となっています。いずれも当館の得意分野。ここでは、写真を中心にその取り組みを紹介しましょう。

9月 11 日（土）開催 粘土制作セミナー（於：山口市徳地 島地保育園）



講師は新進気鋭の陶芸家、渡邊陽子さん



道具にも自然界的なもの（貝や葉っぱ）を使います



家族みんなでたのしく作品づくり！

対象は山口市徳地に所在する島地保育園の園児を中心とした地域のちびっ子たちとその兄弟、ご両親。作品のコンセプトは『粘土と火のあい～どうぶつたちの大ぼうけん！～』です。家族で協力して粘土をコネコネ。思い思いに好きな動物と乗り物をつくりました。

**10月23日(土)開催 野焼き体験ワークショップ 1日目 (於：山口市徳地 旧島地中学校グラウンド)**



燃料となる薪の上に作品を積み上げます



燃料と作品にフラをかぶせ、表面を粘土で覆います



約2時間の作業を終え、窯に点火！

1ヶ月以上かけてゆっくりと乾燥させた作品。いよいよ焼成の時を迎えました！今回は、弥生時代の土器焼成方法と推定されている『覆（おお）い焼き』に挑戦です。粘土制作セミナーの参加者と地域のボランティアスタッフの方々との共同作業。朝8時30分から作業を始め、10時30分頃に5基全ての窯が完成。子どもも大人も泥だらけです。点火を終え、ワークショップ初日、無事終了！

**10月23日(土)夜～24日(日)朝 ひたすら火と格闘する (於：山口市徳地 旧島地中学校グラウンド)**



窯のお世話はひたすら続く



島地保育園の園長先生も応援に駆けつけてくれました



長い夜が明け、闘いを終えた窯たち

当館のこれまでの実験結果から、覆い焼きによる焼成は点火から12時間程度で最高温(約700°C)に達し、そこからさらに12時間かけてゆっくりと温度を下げていきます。火の回りが悪いときは、空気を送り込むなどの処置も必要。つまり「寝ずの番」が必要となります。折しも「クマ出没注意報」も発表となり、気を抜けない夜となりました。

**10月24日(日)開催 野焼き体験ワークショップ 2日目 (於：山口市徳地 旧島地中学校グラウンド)**



残念ながら土砂降りの雨での開催



作品を壊さないよう、慎重に窯を解体します



動物(作品)たち、無事に生還しました！

夜明けとともに降り出した雨。焼成中に降らなかっただけ幸運でした。10時30分、雨の中参加者の皆さんとともに窯の解体を行いました。子どもたちの真剣な眼差しの下、ゆっくりと窯を開き、灰を払いのけていくと…そこにはたくさんの動物たちの顔が！

**10月31日(日)～11月13日(土)開催 作品展・写真展・レプリカ展示 (於：山口市徳地地域交流センター)**



あ、僕の動物が展示されてる！



子どもたちの笑顔が満載の写真展



家でも大事にしてくださいね！

最後の事業は、成果展。開催期間中、参加者をはじめ地域の皆さまにご観覧いただきました。当館も、覆い焼き窯のミニチュアレプリカを出展し、覆い焼き技法の解説をおこないました。参加者の皆さま、スタッフの皆さま、本当にお世話になりました。数え切れない笑顔に囲まれた幸せなイベントでした。子どもたち、大きくなったら山口大学で再会しよう！

(横山成己)



## 六連島音次郎遺跡出土の朝鮮系無文土器

### 響灘に浮かぶ六連島

六連島は下関市の中心部からおよそ 5.5km 北西の響灘に浮かぶ面積 0.69k m<sup>2</sup>の小さな島で、西側は北九州市馬島と隣接しています。対岸の本州からは島の全景をはじめ、島の南東部にある重油・灯油・軽油用タンク群などをはっきりと見ることができます。また、下関市竹崎港から六連島までは下関市営渡船による連絡船があり、約 20 分で渡ることができます。

この島の南西端部、音次郎地区に位置するのが六連島音次郎(むつれじまおとじろう)遺跡で、現在でも波により浸食された遺物包含層に多数の土器が含まれているのを確認できます。この遺跡は1958年(昭和30)、下関市教育委員会の委嘱を受けた小野忠熙氏により初めて発掘調査が行われ、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、青磁など、縄文時代後期から中世に至る土器が出土しました。また、棒状土錘、鹿角製釣針、魚骨のほか、円筒形で内面に布目痕がある奈良～平安時代の「六連式製塩土器」など、漁業や製塩に関わる遺物も多数出土しました。遺跡の詳細は不明ですが、海や交易に関わる集落が古くから営まれていたのでしょう。

これらの出土遺物の一部は山口大学埋蔵文化財資料館で保管されていますが、1985年(昭和60)に至り、当館の遺物整理によって出土遺物に朝鮮系無文土器が2点含まれることが確認されました。

### 朝鮮系無文土器

確認された朝鮮系無文土器は甕の口縁部片2点です。いずれも口縁部が「く」字状に折り曲げられて断面が三角形になっており、「粘土帶甕」と呼ばれています。この土器と共に伴した弥生時代の土器は前期から後期まで時期幅を持ちますが、口縁部の特徴や他遺跡の出土例から、時期的には弥生時代中期後半に位置づけられます。詳細は不明ですが、恐らく朝鮮半島から何らかの形で持ち込まれたものでしょう。ほぼ同時期の朝鮮系無文土器の甕は下関市秋根遺跡、宇部市沖の山遺跡から出土しているほか、福岡県、長崎県の海岸部や島嶼部の遺跡からも出土例があります。山口県においては響灘沿岸の諸遺跡から土器をはじめ、銅鏡や銅剣など朝鮮半島との交流を物語る遺物が出土していますが、六連島音次郎遺跡出土の朝鮮系無文土器も弥生時代における朝鮮半島との交流を裏付ける貴重な遺物です。

(田畠直彦)



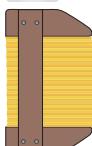
六連島遠景（東から）



遺跡の現況（南から） 漂着物が激しい潮流を物語る



六連島音次郎遺跡出土の朝鮮系無文土器



## 山口県内の博物館紹介 vol. 21

### 福田貝館

周南市と山口市徳地の中心部をつなぐ国道376号線を通っていると時折島地川の清流が見えます。その島地川に沿う徳地島地地区の街中に、今回ご紹介する福田貝館はあります。

福田貝館は、隣にある医院で医者を勤められた福田敏一先生が昭和55年に開設した施設で、現在はご自身が館長となり展示活動を行っています。展示室には日本貝類学会にも所属している福田館長がこれまでに収集された世界各地の貝殻が数多く展示されています。今回は福田貝館について、福田館長にお話を伺いました。

(質問) 福田貝館を設立したきっかけは何でしたか。

(回答) 息子が小さい頃、海や山で貝を拾ってきて調べていて、本当に好きそうだったから本を買って一緒に貝探しに行くようになったんです。そういううちに知り合った貝類の研究者とも一緒に行動するようになり、海外にも貝を探集しに行きました。最初は家の中で集めていたのですがね、かなりいっぱいになったので、みなさんにも見られるようにしようと思って展示場を作りました。

(質問) 考古学では装身具として使われるゴホウラもありますね。他にも、イモガイやタカラガイはコーナーになっていますが、それらも含めてとても種類があって驚きました。ここではどんな貝をどれくらい展示しているのですか。

(回答) 初めに貝探しをしていた頃から現在まで収集した貝殻を約5000種類保管しています。世界中にはもっと沢山の種類がありますが、そのうちの3500種類ほどを展示しています。山口県なら土井ヶ浜遺跡からゴホウラの腕輪が見つかっていますね。当館には加工されたものはありませんが、遺跡から出土するものは貝塚からよくできるハイガイなども展示しています。展示室は棚ごとに巻き貝や二枚貝、南の貝、北の貝、珍しい貝、山口県の貝、原始的な貝、陸の貝など、いろいろなコーナーを設けています。

(質問) 貝の魅力はどんなところに感じますか。

(回答) 不思議な形や美しい色彩に光沢、特に形自体が面白いです。二枚貝や巻き貝、パイプみたいなものや、タコが作る貝というのもあるし、他にも同じ貝に逆巻きがあったり、角が沢山生えているもの、石や貝を自分に沢山付けるもの、とにかくいろいろな貝があって面白いです。模様も人間にはなかなか作れないようなものがあって綺麗さに感心してしまいますね。その他、成長や産卵などの生態も貝を見ていると判るものがあったりして、あげだしたらきりがありません。

(質問) 来館者の方に感じ取ってほしいことはありますか。

(回答) 来館していただいた方にはいつも、何が楽しいか自分で見つけて欲しいとお伝えしています。それが色であっても、形、光沢、種類の多さ、価格であっても、自分なりの楽しさを見つけて興味を持っていただければと思います。昔はよく見かけたものでも、最近は減ったり、生息地が変わって見られなくなったものも展示しておりますので、見聞を広げるのに役立てていただければ幸いです。

福田貝館の所在する山口市徳地周辺は自然豊かな山川に、重源上人に所縁のある月輪寺薬師堂や岸見石風呂、法光寺の阿弥陀如来像などがあり、国や県の指定文化財に登録されているほか、廃仏毀釈と神道国教化に抗った明治3傑僧に数えられる島地黙雷上人の雨田草堂などもあります。また、豊かな自然を観察すると、巻き貝など様々な生物も見ることが出来ます。貝に興味がある方、文化財が好きな方、徳地を散策しながら、一度福田貝館にお立ち寄りになってみてはいかがでしょう。

(松浦暢昌)

(注) 野生生物の採集を奨めているわけではありません。また自然と接する際は安全を充分留意した上でお楽しみください。



福田貝館 展示室



「珍しい貝」の展示コーナー  
変わった形や綺麗な模様がいっぱい



貝について質問すると調べて丁寧に  
教えてくださる福田館長



福田貝館外観



福田貝館アクセスマップ

お問い合わせ先

福田貝館  
〒747-0522  
山口県山口市徳地島地 288  
TEL 0835-54-0011 または 1020  
休館日 / 月曜日 予約開館につき  
お電話でご相談ください



## 平成 22 年度 5 月～11 月 埋蔵文化財資料館の活動

**5月** 5/6(木)・11(火) 吉田構内教育学部G棟(吉田遺跡)で立会調査を実施

5/10(月)～6/3(木)

小串構内立体駐車場(山口大学医学部構内遺跡)で予備発掘調査を実施

**6月** ~6/4(金) 第29回企画展『大学発遺跡行き～やまぐち時空列車の旅～』閉幕

期間中入館者数 620名

6/14(月)～8月 27日(金)

学内連携企画展 学術資料写真展 MANABU's Eyes Vol.1

『Relics～光と影で蘇る古代のデザイン～』開催

期間中入館者数 549名

6/19(土) 第10回公開授業

『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう5』

第1回授業(田植え)開催

6/22(火) 小串構内立体駐車場(山口大学医学部構内遺跡)で立会調査を実施

**7月** 7/20(火)～28(水)

吉田構内教育学部改修工事(吉田遺跡)で予備発掘調査を実施

7/27(火) 吉田構内男子寮改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

**8月** 8/7(土) 第10回公開授業

『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう5』

第2回授業(土器づくり・水田雑草観察)開催

8/9(月) 吉田構内特別支援学校排水溝工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

8/18(火) 吉田構内ガス管改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

8/19(水) 光構内防球ネット新設工事(御手洗遺跡)で立会調査を実施

8/23(月)・24(火)

小串構内地域医療教育研修センター予定地で予備発掘調査を実施

8/30(月) 吉田構内里山整備工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

**9月** 9/1(水) 吉田構内本部カーポート新設工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

9/6(月)～10月 8日(金)

第30回企画展『高杯～盛る器～』開催 期間中入館者数 99名

9/6(月) 小串構内立体駐車場(山口大学医学部構内遺跡)で立会調査を実施

9/11(土) NPO法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」共催イベント

『野焼き体験ワークショップ～粘土制作セミナー～』開催

(於：山口市徳地 島地保育園 参加者 82名)

**10月** 10/7(木) 吉田構内男子寮改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施

10/10(日) 第10回公開授業

『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう5』

第3回授業(収穫・土器焼き)開催

10/23(土)・24(日)

NPO法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」共催イベント

『野焼き体験ワークショップ～野焼きワークショップ～』開催

(於：山口市徳地 旧島地中学校グラウンド 参加者 134名)

10/30(日) 第10回公開授業

『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう5』

第4回授業(脱穀・古代食調理、実食)開催

10/31(日)～11/13(土)

NPO法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」共催イベント

『野焼き体験ワークショップ～成果展・写真展・レプリカ展～』開催

(於：山口市徳地 徳地地域交流センター)

**11月** 11/1(月)～12月 11日(土)

大学博物館連携第一弾 交流展

『EXCHANGE! 山口大学埋蔵文化財資料館 × 梅光学院大学博物館』開催

期間中入館者数 378名

11/13(土) 梅光学院大学博物館にて当館展示のミュージアムトークを開催

11/20(土)『平川まつり』でパネル展示参加(於：山口市立平川中学校)

11/27(土) シンポジウム『中国・四国地区の大学博物館～いま大学の博物館が求め

られているもの～』開催

(於：山口大学吉田キャンパス共通教育合併講義棟 2 番教室)



第29回企画展 展示風景



小串構内立体駐車場建設予定地の調査風景



吉田構内教育学部改修工事に伴う予備発掘調査風景



NPO法人との共催イベント『粘土制作セミナー』風景



梅光学院大学博物館でのミュージアムトーク風景